

<p>今年度の指導の重点</p> <p>豊かな心を持ち 自ら学び たくましくいきる清泉の子を育成する</p> <p>○すすんで学ぶ子ども ○思いやりのある子ども ○やりぬく子ども ～わくわく・きらきら・笑顔が輝く学校づくり～</p>	<p>津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組</p> <p><input type="checkbox"/>学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 】</p> <p><input type="checkbox"/>授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】</p> <p><input type="checkbox"/>言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 C 】 年度末【 】</p> <p><input type="checkbox"/>学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 B 】 年度末【 】</p> <p><input type="checkbox"/>授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 C 】 年度末【 】</p> <p><input type="checkbox"/>家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【 】</p>
--	--

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国(6年生)</p> <p>○国語A、理科については、正答率が県平均、全国平均を上回った。</p> <p>○算数A・B、国語Bについては正答率が県平均、全国平均より下回った。</p> <p>○国語A：漢字の読み書きの正答率が高い。主語・述語の関係の理解 本校30.8%(全国35.5%)</p> <p>○国語B：条件に合わせて文章を書いたり、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる記述式の問題 本校25.6%(全国33.2%)</p> <p>○算数A：角の大きさ 本校100%(全国94.4%) 180°より大きい角の求め方 本校76.9%(全国58.5%) 12÷0.8小数の除法 本校30.8%(全国39.9%)</p> <p>○算数B：記述式の問題 本校29.2%(全国43.9%)</p> <p>○無回答率が0%が多く、問題をを粘り強く解こうという姿勢が見られた。</p> <p>県(3～5年生)</p> <p>○国語については3・4・5年生が、算数については3・5年生が県・全国の平均正答率を上回った。</p> <p>○国語・算数共に、基礎的な問題は全学年の正答率が高くなっている。しかし、活用問題(特に表現力)の正答率が低い。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○テレビやインターネットなどでニュースを見ている児童が、とても多い。放課後、家でテレビ・DVDの視聴やインターネットを利用している割合が県平均より少し多い。</p> <p>○家庭学習は宿題が中心で、授業の予習・復習はあまりしていない。</p> <p>○平日に読書を2時間以上している児童の割合が県や全国に比べてとても高い。</p> <p>○6年生が自主的に、あいさつ運動に取り組み、あいさつの意識は高い。</p> <p>○地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりしている児童が多い。</p> <p>○理科の勉強は好きな子が多い。自然の中で遊んだり自然観察をしたりすることがある児童も多くなる。しかし、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返ることが苦手な児童も多い。</p> <p>○将来の夢や目標を持っていたり、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童の割合が県や全国に比べてとても高い。</p>
---	--

成果 課題

<p>○朝学習の時間(15分間)に、現学年の漢字の読み書き、四則計算等、基礎基本学習を繰り返し取り組むことで学習の定着につながった。</p> <p>○4～6年生は週1回、放課後算数教室の時間を設け、全学年までの算数の基礎問題を取り組み定着を図ってきた。</p> <p>○授業の始まりや宿題等で問題データベースを活用してきたことで基礎問題の定着に役立っている。</p> <p>○校内研修等で、児童の学習状況の交流を知り、どういった授業づくりを進めていけば良いのかを研究してきたことが成果へとつながってきた。</p> <p>○春休みには、どの学年も1年間学習してきたことが復習できるワーク等の宿題を出すことで次年度へつなげて行く効果がでている。</p>	<p>○文章を読みとり、条件に合った文章を書いたり、計算式を導きだし立式したりするなど、国語・算数とも活用型の問題を苦手とする児童が多い。また、答えは～だろうとある程度理解はできているものの、それを文章化することが難しく、解答までに時間がかかってしまう。</p> <p>○国語では話し合い活動や手紙の書き方、俳句など幅広い知識の定着が必要である。また、問題文を正しく読み取り、重要語句を見つけることで解答へつなげていくことができていない児童が多い。</p> <p>○算数では、条件に合った式をえらんだり、与えられた式から問題をえらんだりすることが苦手な児童が多い。</p> <p>○問題文が長く何を問われているかわかりにくい問題の中から、必要な条件を見つけ出し、関連づけて解答に導いていく力が弱い。</p>
--	---

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
現学年までに学習する、四則混合計算、空位のある計算、波及的繰り下がりの計算問題や漢字の読み書きができる。	それぞれの学年末まで	全学年、平均正答率90パーセント以上	・データベースを全学年で活用したり、朝学習などでのプリント学習 授業の中で前時に学習したことの振り返り、単元終了後のテスト、学期末ごとの評価テストを行ったりする。	毎日の宿題として漢字練習やデータベースの活用、放課後算数教室での四則計算の問題を解くなど繰り返し取り組んでいる。データベースの活用は、学年によって開きがあるので、活用を進めていきたい。	B			
低学年30分、中学年45分、高学年60分の家庭学習の時間を、宿題・読書・自学・予習・復習など、しっかり取り組めるようにする。	それぞれの学年末まで	全学年、宿題の提出を100パーセントにする	・その日の授業内容に沿った家庭学習に取り組ませる。・自主学習、予習復習など、良い事例や取り組みなどを全校児童や保護者に紹介していく。・生活実態調査等を活用し定期的に取り組んでいる時間などをふりかえる。	どの学年も授業内容に沿った家庭学習に取り組ませていた。自主学習リレーノートの取り組みを提示、紹介している。チャレンジハッピーデーを活用し、家庭学習チャレンジを行っている。	B			
考えて「書く」こと、文章(問題)を読んで「書く」ことができるようにする。	それぞれの学年末まで	全学年、ノートやプリントに考えや振り返り、解答を文章で書くことができる。	・授業中の「まとめ」や「ふりかえり」を児童に考えさせる時間の確保。・書いたことを発表させ共有させたり、書き方の紹介をさせたりする。・週末課題として、記述問題に取り組ませる。(授業改革推進委員と連携して)・読書をしたり、新聞を読んだりする。	自分の考えをノートに書いたり、発表したりする時間の確保される授業作りが進んできた。記述問題に取り組むような課題が少ないので、3学期は増やしていく。親子で取り組むふれあい読書の活動を全校で広げたい。	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組 保護者・地域へ理解・協力を求めること

<p>○県・全国学力学習状況調査の分析を基に、中学校ブロックでの学習状況の交流を進める。</p> <p>○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。</p> <p>○中学校から小学校6年生への出前授業の取り組み。</p> <p>○チャイムの合図・そうじ・あいさつなど落ち着いた学校生活を送るためのルールの徹底。</p>	<p>○通信、懇談、学校評議委員会などで、子どもたちの様子を伝え、学校としてどんな子どもに育てていきたいのか、しっかり伝える。</p> <p>○母親委員との協力で、早寝、早起き、朝ご飯の呼びかけをしたり、教育を語る会で子育てに関する講演会等を行ったりすることで家庭・地域との連携を深める。</p> <p>○チャレンジハッピーデーやふれあい読書(年2回)を活用し、メディアの利用時間を家庭で考えたり、親子でふれあったりする時間をつくる。</p>
--	---